



かめ が ひろ

亀ヶ広の桜と中勢鉄道

新しい津市には、多くの桜の名所があり、私たちの目を楽しませてくれる。今回の歴史散歩ではその中の一つ、白山町の桜の名所・亀ヶ広を



ご紹介したい。

雲出川の北岸を通るかつての初瀬街道が、一志町に至る手前の約500メートルが亀ヶ広の桜並木である。

かつて岩田橋と久居を結んでいた大日本軌道が大正9(1920)年に中勢鉄道に譲渡されると、翌年には一志町大仰まで延長され、さらに大正14(1925)年には白山町の伊勢川口まで延長された。

このことから、亀ヶ広駅やその周辺の整備として昭和初期に青年団や在郷軍人の手によって多数の桜の苗木が植えられたことがその始まりである。当時の村長は「亀ヶ広を吉野に負けない桜の名所にしよう」と語っていたことが今に伝えられている。

この中勢鉄道は戦時中の昭和18(1943)年に廃止され、また戦後の食糧難からせつかく植えられた亀ヶ広の桜も開墾により多くが芋畑にされた。現在の桜並木の多くはその後に再度植えられたものであるが、一

部に昭和初期に植えられた桜の老木をみることができる。

また、亀ヶ広の桜並木の上流には、かつて雲出川に架けられていた中勢鉄道の橋脚が残っている。

地域の振興を願って植えられた桜の老木を見ながら、かつてゆっくりとしたスピードで蒸気機関車が走っていた光景をしのいでみてはいかがだろうか。

(「広報津」平成19年4月1日号)



亀ヶ広の桜並木